

【震災募金口座】 振替 00140-9-180881
宗教法人日本バプテスト連盟総務部

《たらちね 子どもドック》

認定NPO法人 いわき放射能市民測定室 たらちねクリニック マネージャー 松坂 美由紀

2011年3月の福島原発事故から6年が経ちました。被災地では、現在も被ばくによる健康への影響の不安を抱えて生活をしているお母さんたちがいます。見えない、におわない、感じない環境汚染に対する不安と、その感じ方は一人ひとり違います。チェルノブイリでは、子どもの甲状腺がんが急増し始めたのは原発事故の5年後です。また、「慢性的に病気」の子どもの数が「健康といえる」子どもの数を超えたのは事故の7年後といわれています。被ばくの影響が身体に表れるまでには、時差があります。チェルノブイリの今は、30年後の福島であり、見えない不安は常につきまといまいます。そんな中、今年5月にオープンした、たらちねクリニック藤田院長の思いは、

- ◇ 不安な気持ちを聞き取り、子どももお母さんも笑顔で帰れるクリニックにしたい…
- ◇ ひとりひとりのお母さんが抱えるストレスに向き合っ手助けができるクリニックにしたい…ということです。

〔こんなこと先生に聞いてもいいのかな。〕
〔ずっと不安だった気持ち、話してもいいのかな。〕と悩んでいる人々に寄り添った、地域の医療を目指しています。たらちねクリニックは、被ばくを受けた被災地の子どもたちが健康と笑顔で明日を生きることを願っています。クリニックの診療内容は、内科と小児科です。一般的な病気や予防

接種も受け付けています。しかし、もっと子どもの未来に役立つことはできないだろうか、

そこで、「たらちね子どもドック」を始めました！！たらちねクリニックが行う「たらちね子どもドック」は、様々な不安に寄り添った、予防を考えた丁寧な検診内容です。

私自身もマネージャーとして、来院された患者様がどんなことに悩み、どんな話をしたいのかしっかり耳を傾け、ここに来てよかった！！と心から思われるクリニックにしていきたいです。

福島県内や近隣の汚染地域のたくさんの子どもたちに利用してもらえるよう切に願い、来院を心よりお待ちしております。

<たらちね子どもドック内容>

- 診察（医師の問診）
- 身体測定（身長、体重、視力、聴力、血圧）
- 体内の放射能測定
 - * ホールボディカウンターによる人体放射能測定
 - * 尿中セシウム測定（NPO法人新宿代々木市民測定所によるゲルマニウム半導体測定）
- 血液検査
 - * 血液一般 ～ 一般的な血液検査（肝臓、腎臓、貧血、炎症反応）他、甲状腺ホルモンなども調べます
- 尿一般検査
- 超音波（エコー）による甲状腺検査
- こころのケア（健康や日々の生活についての悩み相談受付）

<クリニック写真>

左：受付
中：待合室の人形と玩具
右：問診中の藤田院長



福島の3教会は「たらちねクリニック」様のご協力のもとで、本年7月9日に教会員子ども・家族に対する甲状腺の出張検診を実施しました（51名が受診）。今後も子ども・家族の健康管理についてご協力をいただきながら進めて行く所存です。（事務局）

福島の今～原発30km圏からのレポート<3>『フレコン』

笹子美奈子（目白ヶ丘教会員）

「フレコン」という言葉を聞いたことがあるでしょうか？福島県民なら誰もが知っている単語であり、そして日常生活を不快にしている正体です。正式名称は「フレキシナブル・コンテナバッグ」といって、放射性物質で汚染された土壌や廃棄物を収納する土嚢袋のことです。数年前まではニュースで山積みされた映像がよく放送され、写真を見れば記憶にあるという人も多いと思います。

フレコンは県内各地の至る所に置かれています。本来は仮置き場という、人家の少ない地域の敷地に集積して保管するのですが、満杯になって他の保管場所を確保できないため、学校の校庭の片隅や住宅の庭の一角に埋めて保管していることが多いのです。学校の校庭に保管されているフレコンはなんと約30万㎡、東京ドームの約4分の1もあるのです。

フレコンはやがて、東京電力福島第一原発が立地する大熊町、双葉町に建設される中間貯蔵施設に30年間保管されることになっています。用地買収に時間がかかっていて、建設が遅れているのですが、とりあえず建設予定地に県内各地で保管されているフレコンを輸送する作業が、昨年4月から本格的に始まりました。そのため、県内では汚染土壌入りのフレコンを積んだダンプカーが毎日行き交い、1日平均350台が各地と大熊町、双葉町を往復しています。先日、避難指示区域だった田村市の取材先を訪ねた際もこの話題になりました。田村市は、郡山市などの中通り地域から、避難指示区域の浜通り地域を東

西に結ぶ国道が通っており、「家の近くの国道が平日の朝から午前にかけてダンプカーだらけになってまいてる」とこぼしていました。大熊町付近の国道6号線を走ると、「除去土壌運搬中」と書かれたステッカーを貼ったダンプカーを見かけます。

昨年度の輸送量は約16万㎡、今年度は50万㎡、そして5年間で1250万㎡の輸送が予定されています。つまり来年度以降、さらに多くのダンプカーが県内の道路を行き交うこととなります。家の近くからフレコンがなくなるのは良いことではありますが、フレコンを搭載したダンプカーを毎朝見かけながら通勤、通学する、それが現在の福島県民が置かれている日常なのです。

<写真>

上：フレコン
仮置き場に保管されているフレコン。
1袋約1トンの容量がある。



下：ダンプカー
フレコンを搭載したダンプカー。
国道6号線を大熊町方面に向かっていく。

